



編集 福井県日独友好親善協会

発行 平成17年10月1日

発行 不定期/年4回程度

責任 中山 茂雄

FREUNDE (友人)

酒生耀子新会長のごあいさつ

「一会一生」

会員の皆様、お元気でしょうか。8月の総会におきまして、素晴らしい実績がおありの堀川 馨会長さんから職を引き継ぎました酒生耀子でございます。

春浅い3月上旬、友好提携5周年を記念して訪独、再会し交流の大切さと、人間関係の温もりを再認識して帰国しましたが、その後、難題が重なり総会が延びておりました。

その間、私自身、全く夢想だにしなかった「会長」という大任について、堀川会長ご自身と執行部の方々がご来宅くださってのお話となり、諸事情をお伺いするほどに、その重大さに躊躇し、思い悩むばかりでした。

然し今、日独協会は昨年度の「国際青年・婦人の船翼事業」の突然の廃止により、本会が置かれていた環境が大きく変わりました。所謂、行政主導から自立独歩の岐路に立たされております。

加えまして、来春の「ヴィンゼン市庭園博」の出展につきましてヴィンゼン市日独協会から出展の要請があり、長い友好関係の上に立つ本会としては、会員が一致団結して事に当たるべき、重要な時期を迎えております。もう今や任に適・不適の有無を越えて、呼応してゆかねば…との念を強くし、文字通りの微力者ですが、堀川前会長様の意志を引き継ぎ皆様のご理解と大きなご協力に支えて頂きながら、この難局を乗り越えていく他に道なし…と決断し、総会におきまして会長の職を受けさせていただきました。

「一会一生」という諺があります。一度の出会いであっても、一生にわたる深いご縁で結ばれています。いわんや昭和51年以来、30年に近く続いています日独の長いご縁なのです。大切に存続させていきましょう。そして、この証に「日本庭園」を是非とも完成させて、ヴィンゼン市に日独相互の心を遺したいものです。

どうぞ会員の皆様、温かいご理解を頂、この初心者女性の会長を陰に陽にご支援いただき、難局に立ち向かいながら、更なる日独間の友好と親善を深めてまいりましょう。ご一緒に強く、明るく前進しましょう。末尾になりましたが、会員皆様のご健勝を念じ上げて新任のご挨拶とさせていただきます。 合 掌 酒生 耀子



会長 酒生 耀子

本年度の事業

- 1 総会 平成17年8月9日(火) 於 県国際交流会館
- 2 訪日団の受入 ヴィンゼン日独協会会員ほか来県10人~20人
訪日 平成17年10月21日~24日(予定)
- 3 ヴィンゼン市庭園博への出展
本協会が事業主体になり出展する。これには、極めて多額の寄付金を必要とするため、会員の総力を結集してこれに当たる。
事業費 3,500,000円 募金の目標金額 2,700,000円
- 4 福井国際フェスティバル2005への参加協力
日時 平成17年11月上旬
- 5 機関紙の発行 3回から4回程度
- 6 ウェブページの再構築と情報の発信
※ 訪日団の受入を事業計画に組み入れましたが、その後の連絡により、参加人数が見込めないため翌年以降に延期されました。
※ 本年4月から翌年3月まで「日本におけるドイツ年」ということで、本会からも参加を企画していましたが、ヴィンゼン市庭園博事業のため残念ながら見送りました。

協会規約の主な改正点

- 1 第13条に定める理事会を廃止し、代わりに「企画運営委員会」が理事会の職務を行うこととした。
- 2 理事会は、総会に付議する事業計画、予算、決算などの事前審査機関になりますが、廃止によりその機能を失うため、事前に会長および副会長の了承を得て、総会に付議されます。
- 3 監事定数2名を1名に改正しました。年間予算が20万円ということから、監事役の手数や事務量を考え減員としました。
- 4 役員任期2年を4年に改めました。2年では、任期期間が短くすぐに改選手続きになり、事務量も増高するためです。
- 5 総会成立要件の会員3分の1の出席という要件を削りました。委任状をいただく規定でしたが、往復はがきの費用などを考えますと、かなりの金額になるためです。

以上の改正は、本年度から本会事務局が県国際政策課から転出し、運営を会員による複数体制(企画運営委員会体制)により行うため、組織をよりスリム化し迅速な対応をとるために改正をしたものです。

役員改選のお知らせ

8月の総会におきまして、規約の改正に併せて任期満了を迎えられています役員の皆様が、次のように改選されました。本会のご協力で厚くお礼申し上げます、引き続き、本会の発展に特段のご協力を重ねてお願い申し上げます。(敬称を略させていただきます)

会長 酒生 耀子 副会長 三浦 和彦 監事 加藤 禮一
名誉顧問 堀川 馨 顧問 末定 直三 同 山内フミ子
同 石本 理 同 伊藤 嘉治 同 荻原 芳昭 同 田
中 広明 同 坪田 律子 同 中島 辰男 同 永多
外男 同 長谷川守男 同 湯浅 雪子 同 佐野 周一



中央に栗田名誉団長と酒生団長

3月の訪独団の手記を紹介します

久しぶりにヴィンゼンを訪ねて

(財)福井県国際交流協会会長 栗田 幸雄

今年3月2日夜福井県日独友好親善協会ヴィンゼン訪問団名誉団長としてドイツ・ハンブルクに降り立ち、翌3日ヴィンゼン市を訪ねる。平成11年10月29日福井県がハールブルク郡およびヴィンゼン市と友好協定を結んでから5年になるのを記念して昨年秋にヴィンゼン訪問団を結成して同市を訪問する予定だったが、昨年7月の福井豪雨などのため延期になり、なんとか平成16年度中にと今回の訪独となったものである。

私にとって5年ぶりのヴィンゼン市訪問であり、なつかしさで一杯だった。そして、なによりも嬉しかったことは、ローデ夫妻、ベックドルフ市長(今年7月まで)夫妻、カッター(今年4月からヴィンゼン独日協会会長)夫妻、湯地日航ハンブルク支店顧問、現地通訳の金子恭子さんらが暖かく迎えてくれたことだった。



翻ってみるに、ヴィンゼン市との付き合いは、ローデさんが中心になって昭和51年に当時の訪日青年の船の青年達を受け入れていただいたことに始まり、30年近くになる。この間、多くの青年達が見聞を広め、国際感覚を身につけるのにどれだけ役立ったことか。国際青年の船事業は、平成15年限り取りやめになったが、今回の訪独の機会に、ハールブルク郡およびヴィンゼン市との交流は、今後も福井県日独友好親善協会とヴィンゼン独日協会が中心になって進めることを確認したのであった。そして、みんなで来年開催される「ヴィンゼン市庭園博」の現場もみせてもらった。今後ヴィンゼン市との友好交流を進める証しとして、この「ヴィンゼン市庭園博」の成功のためできるだけの協力を進めたいものである。

上記の写真は、お元気なローデ氏

子供連れのドイツ訪問の旅

会員 村田 幸子

これまでドイツには馴染みが深いとはいえ、今回はなんとつても子供連れ。2歳の娘にとっては、初の海外旅行となる新しい試み。どうなることかと少々不安を持ちつつ出発しましたが、参加者の皆様に暖かく迎えられて無事旅行を終えたことをまず心より感謝しています。

今年ドイツでは、「100年に1度の寒さ」と報道された地域もあるぐらいの寒い三月となり、ハンブルクに到着して空港を一步出ると、雪景色に顔をさすような冷たさに思わず歯がガチガチ。

軟弱な日本人(私)は早く暖かい車の中へ・・と思うのですが、サイズの合わないチャイルドシートに子供を乗せてなんとかベルトをしめようとドアを開けっ放しのまま暗い寒空の中で奮闘すること10分以上。(日本人なら、とりあえずドアをしめて出発するところなのに・・やはりここはドイツであったと再確認。)子供連れの気疲れもあってすっかり食欲をなくしている私をしり目に、「ハンブルクで一番高級」との歌い文句の和食レストランで出された串焼きをほおぼる年配の方々の食欲に圧倒されました。

ドイツでは、すでに日本への代表団長として来られ、一人息子さんも高校生交換生として来福されたヒラー氏ご一家で暖かいもてなしを受け、娘ともども大変リラックスしました。

ヒラーさん宅では、奥さんのウタさんと娘との間で言葉の交換レッスン(?)が行われていたようで、あとから奥さんから「アンジュ(娘)が言っている日本語はこういう意味?」と確認されました。また娘も新しいドイツ語の単語を覚えたようで、分かっているのか分からないのか不思議な会話が成りたっていました。

皆さんより一歩早めに、同日早朝にヴィンゼン市を離れましたが、やはり寒い駅ホームでヒラーご夫妻と涙の別れがあったことはいうまでもありません。このときはまだ、その後の、娘と2人のドイツ珍道中については知る由もありませんが、今となっては何もかもが良い思い出となることでしょう。

ヴィンゼン訪団に参加して

会員 浅妻 珠恵

この度のドイツ訪問では、かけがいのない思い出をいっぱいいただきました。今は 懐かしいばかりです。

美しい町並みや風景、暖かい人柄は、いつかまた懐かしがってドイツへ行かせるような気持ちにさせると共に、日本の暮らしや自分の住む町に対する意識が高まったと感ずます。

ほんの一部しか見ていないかもしれないけれど、ドイツ人の質素な生活と節電状況、自然環境の保持、町景観の遂行など信じてやり通す粘り強い姿勢には感服です。

さらに、ホームビジット宅をご訪問させていただきました折には、言葉が不十分で戸惑い気味の私に、親切に接し、暖かく楽しい日を過ごさせてくださったご夫妻には、とても嬉しく感謝いたしております。お二人の独日親善に対するお心の広さと、行動力にも感銘をいたしました。

ご婦人は、今までに何回か地域の子もたちを集めて、日本食の試食会をしたり、教会へ持っていき子どもへのプレゼントに日本の千代紙を使用しているなどしていると、ご主人は、当日ローマ字読みの辞書を出してきて、たくさんの読み方を私に聞きました。きっと、今でも親日家としての生活を静かに楽しんでおられるのではないのでしょうか。この原稿を書くにあたり、当時の思い出がよみがえりドイツ語は出来ないけれど、お手紙でも書こうかしらと思うこの頃です。

ヴァンゼン訪問に参加して

会員 寺元 外茂子

今回日独友好親善協会のヴァンゼン訪問に参加させて頂き、有意義な一週間を過ごさせて頂きました。訪独は二回目ですが、夏に訪れたブラウバッハと今回の冬のヴァンゼンでは季節の違いだけでなく町並みの雰囲気も全く異なり驚きました。

まず福井では春に向けて暖かくなってきた三月なのに、ヴァンゼンでは雪は少なくてうすらなのに、寒さが厳しく氷点下の状態で肌がちくちくする感じです。でも、雪の汚れは全くなく美しい景色に感激でした。

そして町並みはどっしりと落ち着いた感じでした。古いものはそのままに、新しいものも自然に溶け込んでいて人々を包み込んでいる感じ取りました。そして総てのことが能率的、効率的、合理的に考えられていることに気づかされドイツ人の気質を垣間見て取りました。

色々感激は沢山ありましたが、まず日本では体験できないこと、それはホームステイ先の方の乗用車での送迎時に、流れる様な感じなのに時速180~190kmだったことです。また、二日間のホームステイでしたが、言葉の壁はありましたが(勉強不足の為)身振りや片言の単語で真心はお互いに充分感じ取れたと思います。また、違う季節に訪れたい思いでいっぱいです。



シュペーリン城
旧東ドイツにて

ヴァンゼンの印象

会員 山本 早智恵

ヴァンゼンは2度目です。最初が調印式で季節が秋ということもあって街全体が黄色に包まれてメルヘンの世界でした。次が今回、真冬でサラサラのスノーパウダーに包まれとてもファンタスティックでした。

気温は低くとても寒かったけれど見覚えのある人に会えたという安心感と優しい笑顔に迎えられて、とっても暖かい気持ちになりました。

心残りは、あんなに素晴らしいパイプオルガンを弾く機会があったのに、オルガン用の曲を何も暗譜していなかったのと、普通だったら弾けるような楽譜が読み取れなかった事が、今でも本当に残念です。機会があれば是非もう一度行ってリベンジしたいです。

旅の想いで



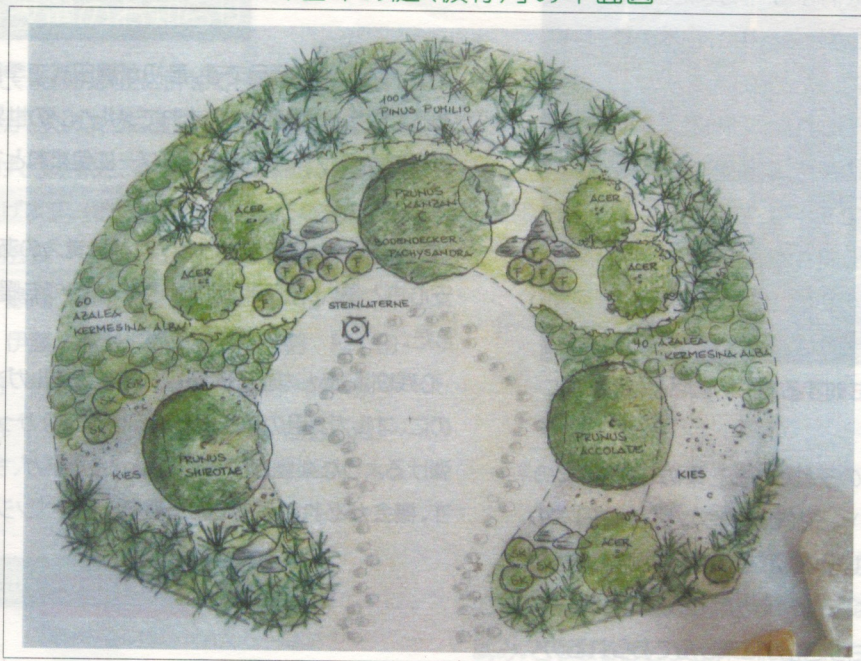
中世から蘇った女王様から(市職員)説明を受ける/休日にもかかわらず熱烈歓迎・大感謝！



上と下の写真 歓迎の夕べ



「日本の庭(仮称)」の平面図



植栽等の施工内訳

桜1本 剪定済み、葉縁鋸歯、“かんざん日本”花付桜 木の寸法:150-200(幅) × 400-500cm(高)太さ 30-35 cm	桜1本 剪定済み、葉縁鋸歯、“しろたえ富士山”桜 木の寸法:200-300cm 太さ 30-35cm	桜1本 剪定済み、“賛美”早咲き桜 木の寸法 200-300×400-500cm	楓5本 ワイン色の葉のカエデ 木の寸法:125-150cm	シャクナゲ7本 雪クッション・シャクナゲ 60-70cm
ツツジ10本 日本フドリネ 50-60cm	シャクナゲ2本 降雪白交配種 90-100cm	ツツジ100本 ケルメジナ・アルパ 25-30cm	ディックメンヒエン400本 15-20cm	クッション松200本 ピナス・ブミリオ、フラットタイプ 15-20cm
荒石4個 シュバルツヴァルトの御影石	小石7個 水晶の砂利 16-25mm	踏石 50個 飛び石用 最大で 50cm	石灯籠 1個 広大、丸、葉味 90cm	泥炭土30個

現地確認の調査報告書から抜粋 (調査日 平成 17年8月24日)

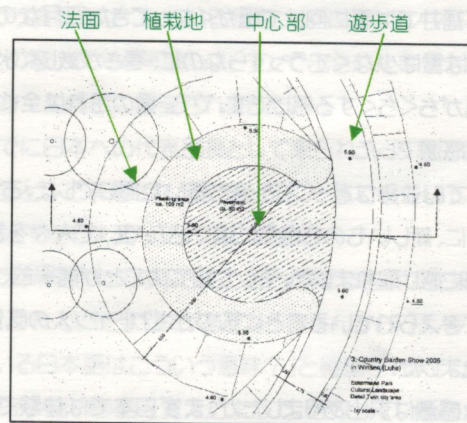
庭園博の開催地は、ヴィンゼン市の北西部に位置し、最北端の開催地にはバラ園があり、このバラ園の隣地がお馴染のマルスター(馬小屋)になる。

開催地の大部分が、未開地の状態で大規模な造成工事が進行しており、この土地にアクセスするための橋梁整備や道路工事が行われている。

日本に提供される土地は、エッカーマン・パークとしてゾーニングされた区画にあり、全体から眺望すれば会場敷地のほぼ中央部に所在している。

日本を含めた各国の土地は、円形状態で整備されている。本会が整備する日本の土地は、中心部が直径10m(面積が90㎡)あり、周囲が3mの幅の植栽地(面積100㎡)で囲まれている。

また、外周は法面となりなだらかなスロープを描いている。法面の面積は、250㎡ある。合計で440㎡になる。庭は、中心部、植栽地、外周の法面の全体を利用した整備になる。



左の写真が、日本側に提供される土地です。裸土の部分に飛び石を配置し、周囲に桜などの樹木が植栽されます。また、右の写真の灯籠が奥に設置されずとともに、石碑も置き記念プレート板をはめ込む計画でいます。



ご意見・投稿・ご照会・何でも結構です、Eメールください。 あて先は、nakayama@fiib.net です